

発行所  
真宗大谷派 難波別院  
発行人 宮浦 一郎  
大阪市中央区久太郎町4丁目  
1番11号(郵便番号541-0056)  
電話 06-6251-5820(代表)  
06-4708-3275(編集)  
1カ年2000円(郵共)1部 150円

9月号  
2014年

# 南御堂

道は近きにあり  
迷える人は  
これを遠きに求む

—清沢 満之—

## 現代と親鸞



中宗大学教授

ひらかわ  
むねのぶ  
宗信

武力でなく  
本願力のみ

日本国憲法は、前文第二段で、次のように宣言しています。

【日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのである。】

私は、ここに真宗との関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのである。恒久の平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐるに

国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有

ましよう。これは、「日怖・欠乏」をなくす努力と、和を尊ぶ、三悪趣の願と重なりま

す。さらに、戦争放棄・戦力不保持を規定した第九条は、釈尊の「殺すな、殺させるな」という「不殺生戒」、そして大無量寿経の「兵戈無用」(武器も兵隊もいらない)と重なります。私は、日本

国憲法は、武力ではなく本願力を持ち、本願に願われた世界を求める国家を目指した「本願国家宣言」、日本国民の「南無阿彌陀仏」と思っています。

改憲案では、国民ではなく国家が前面に出ています。そして、国家の歴史・文化、天皇制、発展と重要国化が誇られてい

### 改憲問題と真宗 (下)

## 真宗門徒が選ぶべき憲法は本願国家宣言

### 本願に照らし見れば

#### 三悪趣国家 目指す改憲

これに対して、自民党改憲案の前文は、次のように述べています。

【日本国は、長い歴史と固有の文化を持ち、国防衛や相互協力による国民統合の象徴である天皇を戴く国家であつて、国家形成、経済活動による民主権の下、立法、行政及び司法の三権分立に基づいて統治される。

我が国は、先の大戦による荒廃や幾多の大災害を乗り越えて発展し、今や国際社会において重要な地位を占めており、平和主義の下、諸外国との友好関係を増進し、世界の平和と繁栄に貢献する。

日本国民は、国と郷土を誇りと気概を持って自ら守り、基本的人権を尊重

を重るとともに、和を尊び、家族や社会全体が互いに助け合つて国家を形成する。

我々は、自由と規律を重んじ、美しい国土と自然環境を守りつつ、教育や科学技術を振興し、活力ある経済活動を通じて国を成長させる。

日本国民は、良き伝統と我々の国家を末永く子孫に継承するため、この憲法を制定する。

改憲案では、国民ではなく国家が前面に出ています。そして、国家の歴史・文化、天皇制、発展と重要国化が誇られてい

#### 親鸞聖人の 念仏の回復

本願に立つ真宗門徒が選ぶべき憲法が現在の日本国憲法であることは、明らかだと思えます。

た

た

た

た

た

た

た

た

た

#### 塵光

今年に入つて大切な方が二人も亡くなった。一人は亡くなつて一月後に知り、慌ててお参りに伺つた。もう一人は亡くなつた連絡をいただいたので、病院に駆けつけ遺体と対面することができた。二人とも近年は一年に一度お会いする程度だったので、いつの間にか来年もまた会えると思

い込んでいた。そんな矢先の訃報に戸惑いを感じる。二人ともお会いしてから長い年月が経過していることに気が付

き驚いている。宮城頭師は著書の中で、「悲しみの深さは贈られていたもの大きさである。その人を亡くしてそこに持つ悲しみの深さ」とい

は、たとえ意識しておろうことおろまいと、その人から生前自分自身は多くのものを受け取つておる。その多くのものを贈られていたその大きさが悲しみの深さに比例する。その死に悲しみを持つということ

は、じつはそれだけ贈られていたものがある。その贈られていたものをその悲しみを通して受け止め直すということ

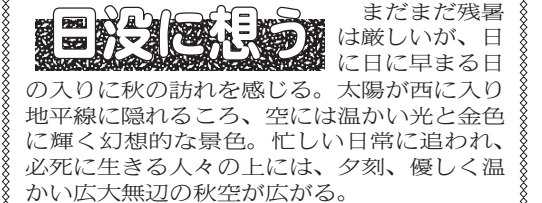
も、後に残った者の大きな声に耳を傾けること

の大切さを感じる。 (M)

る生活を始めることが願

われているのではないで

しょうか。



### 日没に想う

まだまだ残暑は厳しいが、日に日に早まる日の入りに秋の訪れを感じる。太陽が西に入り地平線に隠れるころ、空には温かい光と金色に輝く幻想的な景色。忙しい日常に追われ、必死に生きる人々の上には、夕刻、優しく温かい廣大無辺の秋空が広がる。

またまだまだ残暑は厳しいが、日に日に早まる日の入りに秋の訪れを感じる。太陽が西に入り地平線に隠れるころ、空には温かい光と金色に輝く幻想的な景色。忙しい日常に追われ、必死に生きる人々の上には、夕刻、優しく温かい廣大無辺の秋空が広がる。